第一小学校シンボルツリー　学校教育目標「夢を持ち、学び合い・支え合う児童の育成」

くすのき

西合志第一小学校
学校だより 第30号
文責 校長 西村羊治
令和6年7月3日

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

合志義塾ものがたり（合志市の歴史）

本校の図書司書の左座先生に「カタルパの樹」という本（マンガ）を紹介していただきました。サブタイトルに～合志義塾ものがたり～とあります。登場人物は、工藤左一（さいち）や平田一十（いちじゅう）です。明治７年に小合志地区に弘生小学校がつくられました。初代校長は横田五十城（いそき）氏であります。その後、明治１０年に西南戦争が勃発します。半年以上続いた国内最後の内戦です。この戦争の影響を受け、工藤家や平田家の村（旧合志郡西合志村黒松）は焼き払われてしまいました。この経験から「こんな仕打ちを受けるのも、農民に学がないからだ。これからの農民は、戦争の犠牲者にならないようもっと勉強しなくちゃいけない。」と、学問を身に付ける必要があると誓ったのである。合生にあった弘生小学校の初代校長の横田五十城先生の影響もあり、工藤左一や平田一十は勉学に励むこととなりました。その頃は、子ども達の就学率は４０％ぐらいで、学校に行けない子は半分以上もいたのです。工藤左一や平田一十は勉学に励み、弘生小学校の教員となります。しかし、もっと独特で興味深く、生徒が学ぶことを楽しめる場所をつくりたいと考えるようになり、新しい学校をつくることとなります。そして、①誰でも学べる　②人として農民として基本的な心構えを学ぶ　③国の統制を受けない学校　④勉強したい人が自然に集まる学校　⑤地元に残って指導者を育成する学校として明治２５年に「志を合わせる」とか、「孔子にも通じる」という意味で、「合志義塾」をつくることとなりました。多くの難題を乗り越え、開塾につながったのです。こうして始まった合志義塾は「自由と規律」「子弟同行」の精神をもとに、ユニークな農民教育を確立させていったのです。明治２５年から昭和２４年までの５８年間の存続で、約６８００人の同窓生を送り出したのです。

カタルパの樹（本）

カタルパの記念碑

カタルパの樹　低学年棟の庭

「カタルパの樹」は、平田一十が徳富蘇峰の開いた大江義塾から分けてもらい合志の繁栄を祈って植樹したとのことです。「楷の木」は、孔子由来の「学問の木」です。上記に紹介した物語には、詳しくは出てきませんが、「合志義塾」の名前の由来や「論語の教え」から植樹されたものと思います。

楷の記念碑

「楷」の木　低学年棟の庭

西合志第一小学校にも植樹されている木です。是非見てください。